

【平成16年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	「地方における専門学校の役割の再確認と、デュアルシステムによる専門学校生の職業観の育成」		
学校法人名	学校法人 帯広コア学園		
学校名	帯広コンピュータ・福祉専門学校		
代表者	理事長 神山 恵美子	担当者・連絡先	村川 貴康 0155-48-6000

<事業の概要>

【ニーズ調査】地方都市でのコンピュータ専門学校の存在価値を探る

【DS開発&実施】学生の職業観の早期育成

地元自治体や企業に対する徹底的なアンケートやヒアリング調査から、主要なIT産業が地元でない地方都市でのコンピュータ専門学校の存在価値を探り、現場が学校や学生に求めているニーズを整理する。その現場ニーズにあった教育を専門学校生に施しながら、デュアルシステム(DS)により企業での就労経験を積ませ、学生の職業観を早期に育成し、具体的なキャリア構築をめざす。

<成果>

【ニーズ調査】

一般企業におけるITスキルのニーズあり

新卒者はITリテラシー&コミュニケーション力が必要

1. 都市部と比較して、企業のIT化が遅れているわけではないことがわかった。しかし保守・運用管理、ネットワーク管理、などの担当者が不足している。社員間のスキルのばらつきも大きい。
2. 一般企業においても情報系専門学校新卒者のニーズはあることがわかった。特に基礎的なITスキルの充実(ITリテラシー、PC・プリンタ運用管理など)と、コミュニケーション能力を中心とした基礎力が求められている。

【DS開発&実施】

DS実施による学生の就職意識の変化、基礎力の向上

学生と協力企業双方にプラスとなる仕組み作りには、地元企業との協力が不可欠

1. 受入企業の業務ニーズは多岐に渡り、共通するカリキュラム開発はさらに検討が必要。単なる座学ではなく、コミュニケーション力を中心とした基礎力をつけるためのグループ演習、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを取り入れたのは有効な手段であった。
2. DS実施により、学生の就職に対する意識に変化が現れ、成果発表では大きな成長がみられた。
3. DSのサイクル(座学1週間 実習1週間 座学2週間 実習2週間)について、6割強の企業からよい評価をいただいた。DSの進め方の一つのモデルになったと思われる。
4. 企業側のDSのメリットに関しては、「企業として地域貢献ができる」「専門学校の現状を理解できた」「職場の雰囲気活性化になる」「社員の新人指導体験になった」など。双方のプラスとなるような仕組みを検討していくためにも、今後も地元企業との協力が不可欠である。